

【エクアドル経済：2018年4月】

1. 経済プログラムの発表

4月2日、モレノ大統領は、「財政安定及び生産再活性化の経済プログラム」を発表した。同プログラムは、財政の安定・均衡、国家の再建及び最適化、ドル化経済の維持、生産再活性化の4つの軸から構成される。同プログラムに関し、モレノ大統領は、「2018年にGDP比5.64%の財政赤字を、2021年までに2.47%に削減する。同プログラムは、社会的弱者に影響を及ぼさないように税金の引き上げは含まない。徴税の効率化・簡素化により、2018年から2021年の間に8億1000万ドルの追加税収を見込んでいる。」と述べた。

2. 聖週間における観光統計

4月4日、観光省は、聖週間の休暇中(3月30日～4月1日)に、国内外の観光客が前年比29%増の95万8000人を記録したと発表した。また、この期間の観光部門での消費額は4400万ドルであった。観光客の行き先は、海岸部(57万1000人, 59%), 山岳部(30万人, 31%), アマゾン地域(8万1000人, 8.5%), ガラパゴス諸島(6000人, 0.6%)であった。

1. 2018年3月物価上昇率

4月5日、国家統計調査局(INEC)は、2018年3月の物価上昇率(インフレ率)が0.06%を記録したと発表した。また、基礎家庭バスケット価格が711.13ドル、世帯収入が720.53ドルであった。

3. 国連ラ米経済委員会による経済成長予測

4月11日、国連ラ米経済委員会(ECLAC)は、2018年のエクアドルのGDP成長率を2%と予測した旨を発表した。また、2018年の南米全体のGDP成長率を2%(2017年は0.8%)と予測しており、各国別のGDP成長率予測値は、ブラジル(2.2%), チリ(3.3%), コロンビア(2.6%), ペルー(3.5%), ベネズエラ(-8.5%)等となっている。

4. 2018年3月の雇用統計

4月16日、国家統計調査局(INEC)は、2018年3月の雇用統計を発表した。同統計によれば、3月の非正規雇用(Subempleo)は労働人口(PEA)の18.3%(前年同月21.4%), 正規雇用は前年同月(47.3%)比2.6ポイント増の50.1%となり、雇用条件が改善した。

5. IMFによるGDP成長率予測

4月17日、IMFは、エクアドルのGDP成長率予測を発表した。同予測によれば、2018年に2.5%, 2019年に2.2%となっている。2018年の予測値は、昨年10月に0.6%と予測されていたが、先進国経済への投資の回復等を理由に、1.9%ポイント上方修正された。

6. 2018年3月の税収

4月19日、国税庁(SRI)は、2018年3月の税収が前年同月比10%増の11億1700万ドルとなった旨発表した。また、2018年1～3月の税収も前年同期比8.2%増の34億3600万ドルとなっている。このうち、付加価値税(IVA)は4.6%増の16億9000万ドルであった。

7. EFTAとの通商協定交渉の終了

4月25日、貿易投資省は、欧州自由貿易連合(EFTA)との通商協定締結に向けた交渉が同日終了した旨発表した。カンパナ貿易投資大臣は、同通商協定により、人口1300万人を擁するEFTA加盟国(アイスランド、ノルウェー、リヒテンシュタイン、スイス)に対して、エクアドル産品が無関税で輸出されると述べた。

8. エクアドル横断送油システム(SOTE)

4月26日、エクアドル石油公社(Petroecuador)は、1972年6月26日の操業以来、現在までにエクアドル横断送油システム(SOTE)が50億バレルの原油を送油したと発表した。SOTEは、アマゾン地域の油田からバラオ港(エスメラルダス県)まで日量36万バレルの送油能力があり、国内で産出される原油の70%を送油している。